

# 東京神學大學報

T O K Y O   U N I O N



T H E O L O G I C A L   S E M I N A R Y

No. 335

DECEMBER 12, 2025

- 後期始業講演「旧約聖書とエジプト」  
東京神学大学 常勤講師 宮 嵩 薫
- 公開夜間神学講座 夏期研修会主題講演  
「旧約聖書における老いとその先にある希望」  
東京神学大学 教授 田 中 光
- クリスマス礼拝説教「独り子をお与えになったほどの愛」  
日本基督教団 西千葉教会 牧師 真 壁 巖
- 日本伝道を担う青年の集い  
説教「受け、生かされ、語り伝える」  
青山学院大学 教授 左 近 豊  
証し「行くべき道を教えよう」  
日本基督教団 神戸神愛教会 牧師 乾 元 美  
「私は天の父に義とされた者」  
日本基督教団 名古屋北教会 牧師 山 田 詩 郎
- 一般時間講演「日本の幼児教育、女子教育に尽くした女性宣教師たちのまなざしとその特徴」  
関東学院大学 准教授 熊 田 凡 子
- 2026 年度入学者選抜    2 月入学者選抜（1 月13日願書締切）  
3 月入学者選抜（2 月 3 日願書締切）



2025. 9. 27 青年の集い

# 「旧約聖書とエジプト」

東京神学大学 常勤講師 宮 寄 薫



## はじめに

旧約聖書におけるエジプトという存在について考察する。旧約聖書に古代オリエント世界が与えた影響は大きいが、我々の関心はメソポタミアに向きがちで、エジプトはさほど重視されていないように思われる。しかし旧新約聖書におけるエジプトの存在感は無視できない。今回エジプト学の知見も交えて、元来密接だったはずのイスラエルと古代エジプトの関係について学び、改めて検証する。旧約文書によってエジプトに対する評価が異なるという疑問にも触れ、その背景を考えてみたい。

## エジプト概観

古代エジプト王国は三千年の歴史を持ち、ファラオ(王)を神とみなす強い中央集権国家である。豊かな資源を有し、王国前史よりたびたびカナンを支配した。パレスチナや西アジア民族とは常に交流があり、彼らは飢饉の際などしばしばエジプトに避難した。多神教、多民族の国であるが、一時的に国家を超えた普遍的な神を崇める宗教改革が行われたこともある(前14世紀)。また呪術が盛んで、死後の世界に対する独特な宗教観を持ち、復活や永遠の命についての信仰があった。

に攻め込まれたのち、ペルシア帝国の支配に下ったが激しく抵抗もした。その後ヘレニズム化、ローマ支配下でキリスト教化、さらにイスラーム化され現在に至る。

旧約聖書の主な執筆期とされる捕囚後(ペルシア時代)には、エジプトは力を失っていた。しかし古代エジプトの高度な文明はカナンのパレスチナに文化的にも多大な影響を及ぼしたことは確かである。箴言、雅歌などの旧約文学書にエジプトの影響が見られる。

**旧約聖書におけるエジプト**

エジプトへの言及は五書、特に創世記、出エジプト記に多い。

主はアブラムに子孫の繁栄と土地の授与を約束した。主の約束どおり、子孫イスラエルの人々が増えたのはエジプトの地においてであった(創47:27・出1:7)。

この民を生き延びさせ、繁栄させた揺籃地はエジプトである。土地の授与については、カナンの地が「ナハラ」(相続地)としてイスラエル12部族に分与される。こうした流れは、かつてファラオに属していた民も、土地も、真の神なる主の支配下に移し置かれた出来事だと神学的に解釈できよう。元来雑多な集団であった民は、ファラオの宮廷育ちのモーセを介して導き出され、神による主権と神の法に統治される特別な共同体主の民イスラエルの形成へと向かうのである。法と契約という要素はエジプト的ではなく、よりメソポ

タミア的である。

創世記12章でアブラムは突如ファラオと対峙して屈しなかったが、この時エジプトは呪われた危険な場所だと印象づけられ、これは主の「エジプトに下るな」とのイサクへの命令(創26章)に継承される。明らかにエジプトを否定的に描いている。これがヤコブに対する「エジプトに下るのを恐れるな」(創46:3)で反転する。創世記後半のヨセフ物語はエジプトに肯定的で、最終的な兄弟との和解だけでなく、イスラエルとの関係も融和的に描くのである。こうした相異は執筆時期や場所の違いから生じるのであろう。エジプトに否定的なのは、ペルシア支配下という政治的状況がそうさせたのではないか。他方、ヨセフ物語はそうでない状況下(より後代か)で書かれたと推測される。

また、創世記に類出する「エジプトに下る」は、神へ向かうのとは逆の方向性を示す否定的表現と見る。これについてはホセア書との関連からも分析を試みた。

## まとめ

イスラエルはエジプトを出ることを通して、自己アイデンティティを構築し主の民となっていく。エジプトはイスラエルのルーツ的存在とも言えるのだが、そこに止まってもいけない。エジプトはイスラエルにとって、言わば、自己を内面化した外国なのである。

## 学長室から

学長 神代 真砂実

クリスマスおめでとうございます。イエス・キリストの御降誕が、希望を喪失しているように見えるこの世界に与えられた真の希望として広く宣べ伝えられますように。そのために伝道献身者が起こされますように。

このコラムを含んだ学報がお手許に届くとき、十一月の入学選抜は終わっているでしょう。これを書いている時点では出願者の数しかわかりませんが、仮に、その全員が合格したとしても、学部には、なお十名ほどが必要です。日本の教会のために、どうしても伝道者が起こされなければなりません。

受験を考えておられる方で、合格できるか心配で迷っているという方もおありでしょう。入学選抜の実施にあたっては、その都度の募集定員を示す必要がありますので、たいへんな「狭き門」に見えるかもしれませんが、大丈夫です。募集定員が完全に満たされたことは、実のところ、もう長いことないからです。ですから、神様の召しを感じておられるなら、ぜひ教会からの推薦をいただいて、受験してください。また、自分が召されていないかどうか、どうぞ祈りつつ、よく吟味してみてください。

神学研修志望の枠での受験もできます。信徒として教会に、キリスト教学校に、キリスト教施設に仕えたいという方のために学部の学びは開放されています。学びたいというお気持ちがあるようでしたら、どうぞ受験を考えてください。



# 「旧約聖書における老いとその先にある希望」



東京神学大学 教授 田 中 光

## はじめに

現代社会において、そして教会において、老いの問題は大きな問題です。どの教会も、高齢化や担い手不足に苦しんでいます。しかし、そもそも老いるとはどのようなことを意味するのでしょうか。ここでは、旧約聖書を手掛かりに、老いを巡る諸側面について考えてみたいと思います。

## 1 全般的考察…老いの諸側面

旧約において、老年期に至る人生の移り変わりはどのように描かれているでしょうか。男性であれば、人は13歳になると割礼を受けて青年期に入ります。青年期は、結婚して共同体における責任を担い、また仕事に励む時期と理解されています。レビ人など礼拝に関する仕事に従事する人を除けば、殆どの人は農業や牧畜といった肉体労働に従事したと考えられます。そして自分の子どもが青年期に入って一人前になる頃には引退し、部族の長老として若い世代を導きました。その際、男性だけでなく、引退した女性もまた、共同体の中で積極的な役割を担っていたと考えられます(士4:415、サム下14:117、20:14120)。

旧約を含めた古代社会において、老いが死に直結する深刻な問題であったことを見逃すことはできません。特に夫を失った女性の老いは大きな問題でした。ルツ記が問題にしているのはまさにそのような問題でしょう(夫と子供を失ったナオミ)。それ故、旧約においては、イスラエルの神が、そうした女性の権利を守る存在であることが強調されており(申10:18)、民もまた、そうした女性たちに配慮するようにと厳しく戒められています(申14:29、24:17、1921)。

## 2 老いた者に対する配慮

夫を失った女性に対する配慮について上で記しましたが、その関連で言えば、旧約は十戒を通して、両親に対する配慮を求めています(出20:12)。聖書学者たちが明らかにするところによれば、この掟は元来、幼い子供に向けたものではなく、成人した大人が年老いた両親の世話をすることを求めるものであったと言われます。

この「両親を敬え」という掟について興味深い点は、この内容が、同じく十戒に記されていて、両親に関する掟の直前に記された安息日に関する掟と構造が似ているという点です。第一に、両者共に禁止ではなく行動を促す掟として記されており、第二に、両者共に掟を守ることに伴う約束が伴っています。そして考えてみれば、両者において、内容面でも共通する部分が見られます。両親を敬えと分けるという点において、安息日を他の日から取り分けるということを強調した安息日規定と共通するのです。こう考えてきますと、

「両親を敬え」との掟は、実は礼拝の精神と通ずる内容を持つっており、しかもそこには大きな報いが伴うことが約束されているのです。

## 3 死と死の先にあるもの

最後に、旧約における死と死後の問題について記しておきましょう。旧約は死を異常なこととして描いているわけではありませんが、それを自然なこととしているわけでもありません。死は人の罪の結果入り込んだものであり、預言書を中心に、それは最終的に克服されるべきものとされています(例えばイザ25:718など)。

一方で、一部の書物を除いて、旧約は死後の世界のことについてあまりにも沈黙しています。その理由として、死にまつわる周辺諸国の宗教的観念を「非神話化」する意図の存在を挙げることができます。しかしそれだけでなく、イスラエルの民にとって、彼らが出会った主なる神が、この世界の現実の歴史の中で自らを示す神であったという事実を挙げることもできるでしょう。主は死後の神ではないということです。

## おわりに

旧約の民は老いの闇としての側面を受け止めつつ、そこに尚、光へと向かう側面を見ていました。この歴史の中で確かに出会ってきた神の確かな現臨と導きの中で、民は老いてなお光を見、死の先にも神の支配を信じることできたのです。こうした旧約の人生観は、私たち教会に生きる者にも大きな示唆を与えています。

## 公開夜間神学講座のご案内

1月・2月  
月曜日

「やさしいヒブル語入門」(全6回)  
講師 宮崎 薫

金曜日

「相互牧会ケア」(全6回)  
講師 ウェイン・ジャンセン

80期正規生・科目受講生・聴講生  
を募集しています

2026年度開講講座

1学期…キリスト教教理の基礎Ⅱ  
福音書を読むⅠ/旧約  
聖書神学入門/カルヴァ  
ンと古代教父

2学期…古典派時代のミサ曲の発  
展/21世紀の倫理/牧会  
カウンセリング入門/旧  
約聖書緒論概説

3学期…信仰の問いに向き合う/  
パウロ入門

\* \* \*

教室…日本基督教団 銀座教会  
開講日…月曜日・金曜日

時間…午後6時~8時

受講料…正規生・8万5千円(1年間分)

科目受講生・1万2千円(1講座)

聴講生・1万2千円(1講座)

定員…各講座・30名

締切…正規生・科目受講生・3月10日(火)

聴講生・講座開始日の2週間前

お問い合わせ・資料請求先…

0422-324185 学外活動委員会

# 「独り子をお与えになったほどの愛」

ヨハネによる福音書 3章 16-21節

日本基督教団 西千葉教会 牧師 真 壁 巖



ニコデモという人はヨハネ福音書3章1節によれば「ユダヤ人たちの議員」でした。彼らはサンヘドリンと呼ばれ、律法を日常生活においてどのように解釈し、適用するか、また民事事件を律法に照らしてどう判断するかという裁判所のような役割を担っていました。ですから、ニコデモはかなり高い社会的地位にあった人だったことが分かります。そんな彼がイエスという人物のうわさを聞き、主イエスに会いに行くのです。

しかし彼は自分の地位や立場を考え、人目に触れるのはよくないと思ったのでしょう。夜の暗い中を主イエスに会いに行きました。3章2節の「ある夜」という言葉が彼自身の心の中にある暗さを示していると言わなくてもできます。しかしそれだけにニコデモは神の救いを真剣に求める人でした。ルカ福音書10章25節で律法の専門家が、「先生、何をしたら、永遠の命を受け継ぐことができるでしょうか」と尋ねていますが、ニコデモの気持ちも同じであったはずだと思います。どうすれば救いを得て神の国に入れられ、永遠の命を得ることができなのか、そのためにどんな善いことをすればよいかを真剣に求めているのです。しかし、そのような努力にもかかわらず、満たされない気持ちを持っていたのでしょう。

ところがそのような彼の求めに対して、主イエスは「神の国に入るために必要なのは、あなた自身が生まれ変わるからだ」と言われました。ニコデモは驚いたはずですが、これまで真剣に神さまを求め、神の国に入るために何をすればよいかを考え、行動してきたのですから、そこでニコデモは尋ねます。「年をとった者が、どうして生まれることができるでしょう。もう一度母親の胎内に入って生まれることができるのでしょうか」と。これに対して主イエスは更に言われます。5節以下です。「はつきり言うておく。誰でも水と霊とによって生まれなければならない、神の国に入ることはできない。肉から生まれたものは肉である。霊から生まれたものは霊である」。ここで言う「肉から生まれたもの」とは単なる肉体のことではなく、罪ある人間の姿を表しています。「霊から生まれたもの」は、神に属する者としての新しい生き方を表しているのです。

ニコデモはこれまで立派な生き方をして、神に喜ばれる良い人間になろうとしてきました。またそうすることで高い地位にもつき、成功もしてきた。しかし、このイエスは良くなることでなく、新しく生まれ変わることを求めている。新しく生まれるとは一体どういうことか。ニコデモは不思議に思います。その答えが10節以下の主イエスの言葉です。

厳密に言えば、ここで語られる主イエスの言葉は、ヨハネ教団と呼ばれる教会の信仰告白だとされています。これはここだけではなく、ヨハネ福音書ではしばしば見られる表現です。この箇所も主イエスとニコデモの会話であるはずですが、いつのまにか「わたしたち」と「あなたがた」と複数形になっていきます。これはすなわち、ヨハネ教団と呼ばれる教会が、ニコデモに代表されるユダヤの人たちに語りかけていることなのです。特に16節の言葉は、主イエスご自身のことが3人称で語られています。そしてここで、神さまが独り子イエス・キリストをわたしたちにお与えくださったこと、そのことによってわたしたちが新しく生きるものとされることが明らかにされています。

ニコデモは人目を避けて主イエスに会いに行くような人でした。堂々と会いに行けば、ユダヤ人議会の一員として問題が生じると危惧したのでしょう。夜の暗い時に主イエスに会いに行きました。一方で彼は、この時の主イエスとの出会いによって大きく生き方を変えられた人でもありました。ヨハネ福音書7章51節によれば、ユダヤ人の指導者たちが主イエスを捕えようとした時、ニコデモは「我々の律法によれば、まず本人から事情を聞き、何をしたかを確かめたうえでなければ、判決を下してはならないことになっているではないか」と進言しています。そして何よりも主イエスが十字架につけられた時のことです。

ヨハネ福音書19章には主イエスが十字架につけられ、死なれ、体が十字架から引き下ろされた時のことですが、39節にこう記されています。「そこへ、かつてある夜、イエスのもとに來たことのあるニコデモも、没薬と沈香を混ぜた物を百リトラばかり持つて來た」。今や人の目を気にすることもなくなり、ニコデモは進み出て、主イエスの体に没薬をささげるのです。主イエスがお生まれになられた時、東の国の博士（占星術の学者）たちが黄金・乳香・没薬をささげたようにです。その他にも、この出来事に大きな神の愛を見た人たちがいました。ローマの百人隊長が「本当にこの人は神の子であった」と告白した通り、主イエスの十字架によって人々を新しく生かす神の愛に触れさせ、大きな喜びに満たされた人たちが起こされたのです。その信仰告白が3章10節以下の主イエスの言葉であり、16節の言葉なのです。

主イエスが「新しく生まれる」ことを語られた時、ニコデモはその意味をすぐに理解することはできませんでした。しかし、この時の主イエスとの出会いが彼の生き方を変えました。ニコデモは十字架の主に出会った時、その額にじむ赤い血に触れた時、彼の灰色の心がまったく違う色に変えられたのです。「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された」事実を、ニコデモは自分と与えられた恵みの出来事として受け止めることができたに違いありません。



## 日本伝道を担う青年の集い

## 「受け、生かされ、語り伝える」

ヨシュア記4章 19-24節 コリントの信徒への手紙一 11章23-26節

青山学院大学 教授 左 近 豊



秋分の日に、神学校時代の友人5人と大住雄一先生のお墓を訪ね、先生の足跡を思い起こしました。墓石には、「草は枯れ、花はしほむ、しかしわれわれの神の言葉は、とこしえにかわることはない」と刻まれていました。先生直筆の文字を転写したものだと言った。出版された博士論文の扉に書き添えられた、そのままの文字でした。旧約聖書の言葉を毎日ヒブル語で読みながら話しておられたこと、遣わされた教会が正しく聖餐の恵みに与れるために骨身を削って祈り、み言葉を説き明かし、牧師である原点に立ち続けておられたことなど、改めて心に刻むひと時となりました。み言葉に打たれ、愛し、携え駆け抜けてゆかれた先生の姿を、墓石を囲んで思い起こしました。墓石それ自体は、美しいが石です。ただそこで先生の生涯を貫いて働かれた主の御業が語られたとき、先生を突き動かしていた神の熱情が、穏やかに晴れた秋空の下で、私たちに激しく迫ってきたのです。

て、聞く者たちに神の「驚くべき御業」を追体験させたことでしょう。語られた救いを噛みしめ、血肉とし、これに生かされて語り継ぐ者とされゆく福音の脈動に突き動かされながら。

ヨルダン川がせき止められて干上がった川床を渡って約束の地へと足を踏み入れた出来事が語られるとき、ヨシュアは、堤越えんばかりの激流逆巻くヨルダン川が割かれて「乾いたところ」(語根 *ḥm*) を通ってヨルダン川を渡ることでできたことではなく、遡ること40年、あの「葦の海」での出来事をも思い起こさせて語ることにも命じました。「あなたがたの神、主は、あなたがたがヨルダン川を渡り終わるまで、その水を涸らしてくださった」(*ḥm*)。それはちょうど、あなたがたの神、主が、私たちが葦の海を渡り終わるまで、その水を涸らしてくださった」(*ḥm*) のと同じである」と。

石の傍らでの語りでは、出エジプト直後の「葦の海」での出来事も思い起こされるのだ、と。ところがこの「葦の海」の語りは、さらに遡って神の偉大な御業を想起させるものとなるのです。「葦の海」では、立ちこめる真黒な雲、闇夜を光が貫いた、とありました。夜通し強い東風をもって海を退かせたので、海は乾いた地(干上がった地)に変わり、水は分かれたところと。人々は海の中の乾いたところ(*ḥm*) を進んで行ったと(出エジプト14:19-25)。

は、「地が混沌として、闇が深淵の面に」あった中に光が創造された出来事に連なるものです。「神の霊」風が水の面を吹き、水を分けられ、乾いたところ(*ḥm*) を地と呼ばれ、水の集まったところを海と呼ばれた天地創造の追体験として、「葦の海」そして「ヨルダン渡河」は語られることになるのです。壮大な天地創造の御業が、歴史的救いの出来事に突入する驚愕の出来事に打たれて語るところをヨシュアは命じたのです。

3章14節以下では、神の箱を担いだ祭司たちの足がヨルダン川の水にかかるや、河の流れはせき止められて、祭司たちは「干上がったヨルダン川の真中に立ち続けている間、イスラエルのすべての人々は「干上がったところ」(*ḥm*) を渡った」と書かれています。「干上がったところ」(*ḥm*) は、天地創造において、豊かな命を芽生えさせる「地」としての「乾いたところ」ではなくて、むしろ熱風吹き付けて海さえ干上がり、破壊の後の荒れ果て、命絶えた、完全な終わりを連想させる言葉といえます。

ヨシュアは混沌と葦の海、そしてヨルダン川の逆巻く流れが割かれて、完全に干上がり滅びた様子を目の当たりにした。その上で、神の言葉によって水が分けさせられて命芽吹く地が創造され、葦の海の中を救いの道が通され、いまや約束の地へと続く命の道がヨルダン川に通されたことを語るよう教えるのです。「干上がったところ」(*ḥm*)、と「乾いたところ」(*ḥm*)。この二つの語彙を巧みに使い分けて、徹底的な終わりを経た後の、新しい創造の御業の中を歩むものとされた畏るべき神のみ旨と、驚くべき救いの恵みを語るのだ、と。

海、大河が割かれる時、神の激しい熱情の風に海は干上がり、乾いた地に変貌し、混沌を切り裂いて命の道を通される神のみ業が、積み上げられた石の傍らで物語られます。直接体験者が絶えても、この神のみ業が語り継がれるところで救いは生起し、救われた喜びを語る神の民が形成されるのです。

旧新約聖書を信仰の誤りなき規範とする教会では、積み上げられた石はなくとも聖餐に与るテーブルを囲んでみ言葉をいただき、かのヨルダン川に身を沈められ、象徴的な死をその身に負われたイエスキリストが、十字架において罪に染みし古き世を滅ぼされ、復活によって新しい創造の初穂となられた救いのみ業を聖霊によって示され続けます。キリストの死によって私たちの命に立ちほだかる罪は干上がり、キリストの復活の命によって結ばれた救いに至る道が通された御業に打たれ続けます。私たちは、この旧新約聖書を貫くダイナミックな救いを噛みしめ、これにこそ生かされ、これをこそ語り伝える働きへと召されているのです。

## 日本伝道を担う青年の集い

&lt;証し&gt;

「私は天の父に義とされた者」

日本基督教団 名古屋北教会 牧師  
山田 詩郎

アイデンティティ・クライシス。私は幼い時から自分が何者か分からず苦しかった。自分は不十分だと思っていた。劣等感の塊。学生時代には、こんな自分は死んだ方がいいと思う闇の時期があった。その原因は、父からネグレクトされていたことが関係しているだろう。とはいえそんな悲しみがあることは他者には見せられないと、人前では明るく繕っていた。

しかし、ある日、御言葉が迫ってきた。「わが父が父、なぜわたしをお見捨てになったのですか。」十字架の御子は父から捨てられ叫んでいた。誰にも理解されないと思っていた私の苦しみ、そこから生じてくる悪・誘惑。これを主はご存知だった。否、私とは比べ物にならない、本来一体であるはずの天の父からの拒絶・断絶を御子は味わっておられた。

劣等感はある自分の力を信じたいと思うことの裏返し、傲慢と不信仰の罪だと、主イエスの許で気付かされた。私のアイデンティティはもはや「劣等感の塊」ではない。私は「キリストのもの」ゆえに「天の父に義とされた者」。主にあってアイデンティティを受け取ってから回復が始まり、牧師への召しに積極的に応答することができるようになった。

私は東神大で出会った妻と共に二〇一四年から名古屋北教会に仕えている。教会には色々な方が集われる。私と同じく、神から引き離す様々な罪に捕らえられている方々だ。子どもの時に受けた傷や言葉に牛耳られている人。罪悪感

&lt;証し&gt;

「行くべき道を教えよう」

日本基督教団 神戸神愛教会 牧師  
乾 元 美

「わたしはあなたを目覚めさせ／行くべき道を教えよう。あなたの上に目を注ぎ、勧めを与えよう。」(詩編32:8)

この詩編の御言葉に、私は伝道者として歩む道を示されました。クリスチャンホームで育った私は、大学卒業後、病院の医療ソーシャルワーカーの仕事に就きました。しかし2年目のとき、担当の患者さんが自分で命を絶つという出来事があり、自分の無力さに打ちのめされ、死の力に圧倒され、仕事を続けることに困難を覚えしました。その頃から神さまに「私に他の歩むべき道を示して欲しい」と祈り始めましたが、事情もあつて結局はそこで何年も働き続けました。

ある時、医療的な技術を身に着ければ自分の無力さを払拭できると思い、専門学校に行くことを決め、退職届も出しました。ところがふと、医者でも死に対抗できないのに、自分が何か技術を身に着けたところで、死を前に無力感を味わうことは変わらないのではな

いかなと思ひ、受験をやめてしまったのです。

仕事も辞めたので、そこからは自分の好きなことをしよう、珈琲焙煎士を目指したり、図書館で働いたり、古本屋になろうとしましたが、どれもうまくいきません。そんなある日、なぜか「神学校に行くという道は？」と心に思い浮かびました。しかし、教会で毎年夏期伝道実習生と接する機会があつた私は、神学生は変わった人が多いし、自分が牧師を志すのであれば勘違いだと思ひました。けれど、どこか心騒ぎを覚えながら、「道を示してください」と祈り続けていたのです。

ある眠れない夜、祈って開いた聖書の箇所が、詩編32編でした。神さまに直接語りかけられたようでした。これまで自分の人生は選択肢の中から自分で選び取って進むものだと思ひていましたが、神さまが私の人生にご計画を持っておられ、神さまが私に歩んで欲しいと望んでおられる道があるのだと示されたのです。自分の方向から自分の人生を見つめていた視点を見つめる視点に180度転換された瞬間でした。そこから祈っていく中で、死にゆく人に対して、私の言葉や業が無力でも、神さまの力ある御言葉や御業を伝えることとなる、させていただくことができる

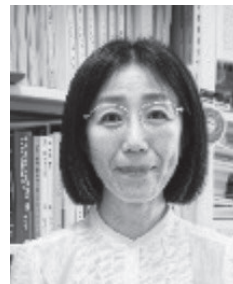
のではないかと思わされたのです。そこから、家族に献身の思いを打ち明け、教会の牧師に相談し、多くの方の祈りに支えられつつ、伝道献身者としての道が備えられていきました。

今は牧師として教会に仕える中で、ひたすら神さまの御言葉を取り次ぎます。苦難の中にある方や、死に直面している方と過ごす時には、共に聖書の御言葉を聞き、共に祈って神さまに助けを求め、目の前の方と共に十字架と復活のイエスさまの御もとに行きます。イエスさまだけが、絶望を希望に変え、死に打ち勝つことがおできになります。神さまご自身が、癒しも、希望も、すべてを与えてくださいます。その恵みの中にあるこの務めを、心から感謝しています。



# 「日本の幼児教育、女子教育に尽くした 女性宣教師たちのまなざしとその特徴」

関東学院大学 准教授 熊 田 凡 子



本講演タイトルより、女性宣教師たちのキリスト教教育の観点とその歴史的意義について、次の内容で講演させていただきます。

1. キリスト教保育の歴史 女性宣教師とJKU
2. 女性宣教師の記録に見る「まなざし」と「雰囲気」
3. キリスト教教育活動における女性宣教師のまなざしと特徴（循環性・継続性・連帯性など）
4. まとめ 女性宣教師たちの教育の歴史的意義

当日は2.を中心にいたしました。

1. 明治初期より、主にアメリカ・プロテスタント・キリスト教の女性宣教師が、教育を通じた宣教に主眼を置き女子教育が開始するが、その中でも特に、「アメリカン・ミッション・ホーム（亜米利加婦人教授所）」（1871年）（現・横浜共立学園）の活動は、日本のキリスト教保育の起源として位置づくこと、また当時模範とされていた官立の女子高等教育機関である東京女子師範学校・附属幼稚園の教育に携わる教師や保母たちに影響を与えていたことが当時の実態から確認できる。アメリカン・ミッション・ホームは、孤児・混血児ら生活困窮者を含む子どもたちのための家庭的なホームとしての養育・保育、及び女子教育という養護的・教育的な働きによるものであった。それは、3人の女性宣教師（ブライン、ピアソン、クロスビーら）が、幼い子どもたちの実の母親のように愛情深く関わり教育していたことが記録されていることから言える。

2. 女性宣教師自身の内面の語り、幼稚園運営録、子どもの心の動きを見つめ直す語り、子どもの捉え方やクラスの「雰囲気」が変容する「エピソード」の記録など提示した。次はその一部である。

・神戸・頌栄幼稚園・保母伝習所の記録（A.L.Howe, 1920）では、12月にインフルエンザによって伝習所の女学生が亡くなり、クリスマスが埋葬の祈りとなり、幼稚園が閉鎖されていた。「悲しみに包まれた」と語り、この出来事を重んじ記録に残している。

・子どもたちの祈る姿を想起し「子どもが『イエスさま』と呼ぶ時は本当にリアルである」（A.L.Reiser, 1938）とこう子どもたちの世界、素直に神に応答している、信仰的な姿を尊重した記述には、今にも変わらず息づくものがある。

・子どもたちの特性「とても拘りが強く気分屋であった子を」「理解できず、彼女を扱いにくい子どもにしていくことがわかった」と保育を見つめ直す記録（M.E. Armstrong, 1919）には、子ども理解の視点と共に、自身を悔い改めようとする気持ちが含まれ、教師自身が人間として深みが増していくものがある。

・援助の必要な子どもがいることで「他の子どもが無関心を引き起こすと考え、受け入れるかどうか躊躇っていた」ことを省察する記録（H.L.Fellow, 1920）では、「最も活動的な男児集団の中の1人の子どもは、自由遊びの時間帯を放棄して、とても優しく世話をしている」場面を取り上げ、援助の必要な子の存在が「最も活動的な男児」の内面に触れ、「愛と思慮深さ」が醸し出され、クラスメートたちの間に寛容な雰囲気を作り出していたことが分かる。こうした雰囲気はキリスト教保育の質を支え維持させてきた。

以上、女性宣教師らのまなざしは子どもたちの内面に深く触れるものであり、子どもが心身共に解放され安心に包まれる雰囲気を保っていた。子どもを大事な存在として理解しようとするまなざしから、新たな子どもたちの理解が生れ、同時に自身の弱さや学びを知り得る作業を繰り返してきた。

これらの記述は、キリスト教保育の歴史の中で残されてきた価値ある資料としてだけではなく、現代保育の子ども理解の視点に資するものである。

さらに、女性宣教師たちが、自身の信仰や子どもたちの育ちを願い信じることに加え、時代の流れの中

で起こる様々な現象に心を動かしながら常にまなざしを注ぎ、ありのままを慰め受け入れる姿勢であり続けたことは、キリスト教保育の特性として現代に息づいている。

3. 昭和戦前から戦後にキリスト教幼児教育に携わった女性宣教師の日系人収容所での活動・アイリン・ライザー「サボテンの花」、アン・ピービー「子どもの心を」収容所内の幼稚園・保母養成教育の実践）

戦時下・日本に帰化したアームストロング「世界中の人々は兄弟姉妹」（子どもたちが「平和を作り出す人」）

日本で抑留所生活をしたローラ・モーク（日本にとどまります）

女性宣教師を循環・連帯させ日本の教育活動を推進したナニー・ゲインズ「外側には触れたけれども、内側にはまだ触れていない」（マコーレの「おはようスキップ」）当日実演させていただきました）

現存する最古のキリスト教主義幼稚園園長兼女学校校長を2度担い運営を継続させたアイダ・ルーサー「種を蒔いていきますように」など短く紹介した。

詳しくは『季刊「教会」』をお読みいただけたら幸いです。

4. 女性宣教師たちの教育活動は、常に内省的な「まなざし」（祈りの繋がり）に支えられていた。それは、彼女たちが書き残した記録、動向、生涯に示されており、御業が現わされていたことから言える。

2025年度  
「神学生派遣プログラム」奉仕

## 加入者名 学校法人 東京神学大学



## 礼拝堂空調機設置報告

昨今の猛暑で夏季に気温が 40 度を超える日が多くなりました。毎日の礼拝は扇風機にて対応してきましたが、体温を超える気温ではかえって熱中症のリスクが高くなります。また、従来礼拝堂で行っていた長時間の行事は、冷房の利く集会室等に場所を移して行いました。学生から礼拝堂への空調機設置が毎年強く求められており、検討を重ねてきました。

家庭用エアコンを合計 10 台設置することで、比較的安価に工事が行え、冷房効果も期待できるとの判断がなされました。文部科学省補助金〔施設環境改善整備事業空調設備工事（熱中症対策）〕申請をし、総事業経費半額の補助金交付決定もなされたことから、熱中症予防対策として 2025 年 6 月に工事を実施しました。

事故なく無事に工事を終え、7 月より稼働を開始しました。皆様のお祈りとお支えによって、東京神学大学の中心たる礼拝堂の環境が改善されました事を、心より感謝申し上げます。学生たちも大変喜んでおります。

2026 年度には、こちらも長らく課題であった本館排水管更新工事を予定しております。今後とも変わらぬお支えを宜しくお願い申し上げます。

総 事 業 経 費：7,205,000 円

補助金交付決定額：3,602,000 円



教会賛助金・後援会献金の前年同月比較集計表

2025年10月末

地区	2024年度実績				2025年度実績					
	教会賛助金	後援会献金	合計		教会賛助金	後援会献金	合計		達成率	達成率
	金額	金額	金額	(%)	金額	達成率	金額	達成率	金額	(%)
北海道	43,384	269,100	312,484		19,085		187,900		206,985	
	(267,000)	(884,000)	(1,151,000)	27.15	(267,000)	7.15	(884,000)	21.26	(1,151,000)	17.98
奥羽	65,000	243,900	308,900		167,000		227,000		394,000	
	(605,000)	(729,000)	(1,334,000)	23.16	(605,000)	27.60	(729,000)	31.14	(1,334,000)	29.54
東北	255,055	757,600	1,012,655		280,000		707,200		987,200	
	(1,095,000)	(2,173,000)	(3,268,000)	30.99	(1,095,000)	25.57	(2,173,000)	32.54	(3,268,000)	30.21
新潟	161,800	525,500	687,300		25,521		360,200		385,721	
	(489,000)	(1,025,000)	(1,514,000)	45.40	(489,000)	5.22	(1,025,000)	35.14	(1,514,000)	25.48
北関東	97,200	272,400	369,600		80,600		139,100		219,700	
	(345,000)	(1,175,000)	(1,520,000)	24.32	(345,000)	23.36	(1,175,000)	11.84	(1,520,000)	14.45
埼玉	122,000	1,200,310	1,322,310		170,000		1,314,291		1,484,291	
	(1,104,000)	(2,355,000)	(3,459,000)	38.23	(1,104,000)	15.40	(2,355,000)	55.81	(3,459,000)	42.91
東京東	6,120,800	4,539,390	10,660,190		7,098,200		4,648,000		11,746,200	
	(9,144,000)	(9,505,000)	(18,649,000)	57.16	(9,144,000)	77.63	(9,505,000)	48.90	(18,649,000)	62.99
東京西南	2,801,120	1,922,300	4,723,420		3,486,720		1,976,600		5,463,320	
	(8,864,000)	(5,714,000)	(14,578,000)	32.40	(8,864,000)	39.34	(5,714,000)	34.59	(14,578,000)	37.48
東京南	1,280,800	2,179,635	3,460,435		1,164,100		2,176,179		3,340,279	
	(3,113,000)	(4,147,000)	(7,260,000)	47.66	(3,113,000)	37.39	(4,147,000)	52.48	(7,260,000)	46.01
東京北	653,270	771,810	1,425,080		621,600		635,325		1,256,925	
	(3,510,000)	(1,877,000)	(5,387,000)	26.45	(3,510,000)	17.71	(1,877,000)	33.85	(5,387,000)	23.33
東京千葉	913,000	1,027,000	1,940,000		1,490,000		1,100,000		2,590,000	
	(2,509,000)	(2,659,000)	(5,168,000)	37.54	(2,509,000)	59.39	(2,659,000)	41.37	(5,168,000)	50.12
西東京	3,126,258	2,727,600	5,853,858		2,831,588		5,024,599		7,856,187	
	(9,960,000)	(6,659,000)	(16,619,000)	35.22	(9,960,000)	28.43	(6,659,000)	75.46	(16,619,000)	47.27
神奈川	3,146,740	9,260,981	12,407,721		2,300,190		7,116,100		9,416,290	
	(9,046,000)	(8,939,000)	(17,985,000)	68.99	(9,046,000)	25.43	(8,939,000)	79.61	(17,985,000)	52.36
東海	1,697,354	2,143,500	3,840,854		1,611,713		1,830,100		3,441,813	
	(3,929,000)	(5,502,000)	(9,431,000)	40.73	(3,929,000)	41.02	(5,502,000)	33.26	(9,431,000)	36.49
北陸	404,000	239,000	643,000		464,220		552,500		1,016,720	
	(1,426,000)	(2,511,000)	(3,937,000)	16.33	(1,426,000)	32.55	(2,511,000)	22.00	(3,937,000)	25.82
愛岐三	650,200	1,013,800	1,664,000		626,600		555,000		1,181,600	
	(2,608,000)	(2,144,000)	(4,752,000)	35.02	(2,608,000)	24.03	(2,144,000)	25.89	(4,752,000)	24.87
京都	113,100	533,000	646,100		22,000		500,000		522,000	
	(289,000)	(641,000)	(930,000)	69.47	(289,000)	7.61	(641,000)	78.00	(930,000)	56.13
大阪	2,626,499	1,712,641	4,339,140		1,168,255		2,083,817		3,252,072	
	(4,803,000)	(5,676,000)	(10,479,000)	41.41	(4,803,000)	24.32	(5,676,000)	36.71	(10,479,000)	31.03
兵庫	357,000	149,500	506,500		350,000		112,000		462,000	
	(1,312,000)	(495,000)	(1,807,000)	28.03	(1,312,000)	26.68	(495,000)	22.63	(1,807,000)	25.57
東中国	0	679,000	679,000		2,000		127,000		129,000	
	(636,000)	(854,000)	(1,490,000)	45.57	(636,000)	0.31	(854,000)	14.87	(1,490,000)	8.66
西中国	47,000	71,000	118,000		104,000		19,000		123,000	
	(822,000)	(473,000)	(1,295,000)	9.11	(822,000)	12.65	(473,000)	4.02	(1,295,000)	9.50
四国	544,750	48,618,118	49,162,868		403,600		168,126		571,726	
	(2,441,000)	(2,090,000)	(4,531,000)	1085.03	(2,441,000)	16.53	(2,090,000)	8.04	(4,531,000)	12.62
九州	349,726	855,500	1,205,226		667,000		628,500		1,295,500	
	(1,562,000)	(1,696,000)	(3,258,000)	36.99	(1,562,000)	42.70	(1,696,000)	37.06	(3,258,000)	39.76
沖縄	0	0	0		0		21,000		21,000	
	(121,000)	(77,000)	(198,000)	0.00	(121,000)	0.00	(77,000)	27.27	(198,000)	10.61
その他	55,000	1,639,060	1,694,060		25,000		202,600		227,600	
	( )	( )	( )		( )		( )		( )	
小計	25,631,056	83,351,645	108,982,701		25,178,992		32,412,137		57,591,129	
	(70,000,000)	(70,000,000)	(140,000,000)	77.84	(70,000,000)	35.97	(70,000,000)	46.30	(140,000,000)	41.14
同賛助	0	3,056,234	3,056,234		0		1,803,424		1,803,424	
	( )	(3,500,000)	(3,500,000)	87.32	( )		(3,500,000)	51.53	(3,500,000)	51.53
諸団体	0	508,833	508,833		0		1,085,888		1,085,888	
	( )	(2,000,000)	(2,000,000)	25.44	( )		(2,000,000)	54.29	(2,000,000)	54.29
学賛助	0	4,660,000	4,660,000		0		4,960,000		4,960,000	
	( )	(6,500,000)	(6,500,000)	71.69	( )		(6,500,000)	76.31	(6,500,000)	76.31
奨学金	0	9,755,317	9,755,317		0		6,761,980		6,761,980	
	( )	(19,000,000)	(19,000,000)	51.34	( )		(19,000,000)	35.59	(19,000,000)	35.59
小計	0	17,980,384	17,980,384		0		14,611,292		14,611,292	
	( )	(31,000,000)	(31,000,000)	58.00	( )		(31,000,000)	47.13	(31,000,000)	47.13
合計	25,631,056	101,332,029	126,963,085		25,178,992		47,023,429		72,202,421	
	(70,000,000)	(101,000,000)	(171,000,000)	74.25	(70,000,000)	35.97	(101,000,000)	46.56	(171,000,000)	42.22

※( )は目標



二〇二五年十二月十二日発行  
東京神学大学報・三三五号  
〒181-0015 東京都三鷹市大沢 31-1 〇一三〇  
東京神学大学広報委員会  
電話 〇四二二一三三一四一八五  
FAX 〇四二二一三三一〇六六七  
郵便振替 〇〇一五〇一五一五〇三二  
<https://www.tuts.ac.jp/>